

第3回阪南みらい会議 会議要旨

○日時：平成22年3月8日（月）

19:00～21:30

○場所：市役所3階 全員協議会室

○出席者

委員	19名（欠席者2名）
アドバイザー	近畿大学 久教授
事務局	政策推進課4名、パシフィックコンサルタンツ（株）2名

（1）はじめに

- ・前回の会議において、進行を名前の順に2名ずつ交代で行うことになったため、今日は2名の委員が進行を行う。

（2）第2回 阪南みらい会議・会議要旨の確認について

- ・質問等なし。

（3）自己紹介シートを配付

- ・自己紹介シートは、将来の阪南市がどうなっていることを望むかという委員の想いを発表する際のツールとして利用する。

（4）委員の想いについて

（主な意見）

- ・一人ひとりがキラリと輝けるまちにしたい。
- ・市民が行政に参画するだけでなく、行政も地域に出てきて欲しい。このような会議を協働で行うことは良いことである。しかし、それ以前に地域の人同士も民民協働を行うと大きな力になると思う。
- ・山や海に囲まれた自然豊かな環境が阪南市の大きな特徴である。山の魅力（自然林の紅葉等）をもっとPRしていく必要がある。また、自然保全構想という国定公園に山中溪が指定されるよう大阪府と調整が必要である。
- ・市民が親しめる散策やハイキングコースといったところに、ガイド用の標識等の整備が必要である。また、サンヒル阪南が宿泊施設を閉鎖することに伴い、ハイキングコ

ースをどのように組み替えるべきか考える必要がある。

- ・まちおこしの施策を考える必要がある。例えば、せんなん里海公園の活用策など。
- ・せんなん里海公園の利用価値が低い。夏季シーズンは駐車料金が高く、また、17時で駐車場を閉鎖するのもおかしいのではないか。
- ・夏場の2ヶ月間開設するプラットホームだけの海浜公園駅を、せんなん里海公園付近に作ってはどうか。人を呼び込めれば、市の名産物や食品加工等も活性化するという。
- ・駅設置については、地域でも議論をしたが財政的に厳しいとの結論に至り、設置委員会を解散した経緯がある。
- ・南海電鉄が駅を設置することが利益を伴わないと判断すれば新駅は難しいが、利益向上ということになれば、交渉することも可能である。地域住民の生活要件として新駅設置を要望するのではなく、人を呼び込むことを目的として考えてみてはどうか。
- ・阪南市には、わんぱく王国をはじめとし、中央公園、箱作公園等多くの公園があるが、特色のある公園となっていない。市民の皆さんとも協力しながら整備を行っていく必要がある。
- ・話が各論にならないよう、1つの事案を深追いしないで、もっと各自の想いを出していくほうが良い。
- ・阪南市の人口を増加させるため、若い世代を呼び込む施策が必要である。
- ・協働を推進するため、市役所の機構改革が必要である。
- ・福祉施策に関して、地域活動の最小単位は自治会であり、校区単位の活動は、自治会活動が活発でない地域では活動する人は限定されたものとなっている。
- ・まちおこしのために、市内外の人を対象としたイベントや住民を対象としたもの、阪南ブランド十四匠を活用するのも良い。NPOによるまちおこしもあると考える。
- ・阪南ブランド十四匠とは、昔から生業として匠の業を続けてきた業者さんの技術を産品の1つとして全国各地にアピールするため、商工会で始めたブランディング戦略のことである。
- ・阪南ブランド十四匠といったものをPRするため、市単独では難しいが広域連携で、関西空港という年間数千万人集まるところでPR店舗を作っても良いのではないか。
- ・自治会の活性化を図る必要がある。地域間で活動内容が全く違うため、情報交換ができる機会を設けることが必要である。
- ・子どもが安心して学校生活できる環境とするため、学校耐震化を進める必要がある。
- ・学校を整理統廃合して維持することも大事だが、校区が狭いから徒歩圏内で学校に通えるというメリットがある。市財政の問題があるので難しいと思うが、今ある学校を活かす方向で考えるのはどうか。
- ・公立の小学校と連携した形で、公立の幼稚園があるまちは阪南しかない。子どもを育てる環境は素晴らしいと考えている。しかし、子どもの施策がないと感じている。産業や観光も大事だと考えるが、子どもが住んでいいまち、住み続けたいと思うまちで

なければ、商工業等の発展も無いと思う。

- ・ NPO運営は非常に厳しい。市施策と融合を図り協働の場づくりが必要ではないか。
- ・ 大阪府外の方は阪南市がどこか分かっていない。府内の人でも南の方にある市というぐらいの知名度の低さである。良いところが沢山ある阪南市が知られていないことが非常に残念である。
- ・ 吹田市は「くわい」が有名となり、それをモチーフにした「ゆるキャラ」を作り、まちおこしをしている。阪南市もそういった地域資源が沢山あるのに活かせていないように思う。
- ・ 市財政を豊かにし健全にするためには、企業を誘致するしかないと思う。企業をバックアップすれば必然と税収も上がる。また、歳出削減については、議員、職員定数、給料の削減をすべきである。市民参画、協働といっても支援するお金がないと話にならない。

～久教授アドバイス～

- ・ 今日、初めて皆さんが自分の想いを語ったと思うが、これを繰り返していくことにより、私たちがどこへ進むのかということを一歩化していく必要がある。つまり、ブランディングである。それぞれの委員が魅力と思うことが一致しているかどうか。将来こういう阪南市にしようという道筋が一致しているかどうか、ぶれたらブランディングはできない。
- ・ 最初は各委員ばらばらのことと言って当たり前だが、回数を重ねる度にいくつかに集約されないと意味がない。
- ・ 阪南市は、旧村がそれぞれ対等に合併をして今に至っているため、ブランディングするときには非常に難しいと考える。山のほうだとか、海のほうだとかいう発言や「阪南市駅」がなく、阪南市にあるどの駅も「阪南市駅」と名乗れないことが、ある意味で一歩化していないということ。この辺は、真剣に議論をしておかないといけないことだと思う。
- ・ そんな里海公園の話だけになると、おおもとのまちおこしや地域活性化の話が飛んで、里海公園の活性化にすり替わる危険性がある。常に一番おおもとを共有しておかないといけない。
- ・ 吹田くわいの話があったが、これは市役所が動いたわけではなく、一部有志の市民が自ら動いて普及させた結果である。まず私が動いてみる。それで仲間を増やしていくという典型例である。
- ・ 田辺市上秋津というところに、秋津野ガルテンというのがある。上秋津小学校の旧校舎を地元集落の人たちが買い取り、そこを宿泊施設とレストランとして経営している。いろいろな事業を集落で行うときは、参加者に出資金を出してもらい運営している。自らがお金も出し、責任を持って運営も行うという典型的な話である。

- ・ブランディングするために想いを語り合って、最終的にできるだけ集約化していく。集約化したブランドをどのような形で実現していくか。できれば、自分が出ることを持ち寄ったほうが実現性は高くなる。このような順番で考えていくと、かなり実現性の高いものになる。成功しているところは、出来る人が出来ることを持ち寄って活動しているところである。
- ・私は、岸和田市の丘陵地区開発に携わっている。関西国際空港の開港当時に作られたコスモポリス構想は、160ha の開発地を工業団地や住宅開発として目論んでいたが、今の時代においては、岸和田インターのすぐそばにある便利な場所であっても企業が来ないのに、そのような構想は実現しない。その結果、開発地を 50ha に縮小し、残り 110ha 分は農業や自然を中心としたまちづくりをしようと、方向性を大きく切り替えた。この 4 月から勉強会も始めるが、土地所有者の農家の方も協力すると言っている。そこへ地元 JA も加わり、先ほど話した田辺市上秋津で研修をしている。
- ・自分が関わったところは、最後まで責任を持ってやり遂げたいと思っている。そういう意味では、ある程度覚悟を持って阪南市に飛び込んでいるので、これから時間は短いけれど、かける時間は長いと期待をしているので、一緒に次回以降の議論に加わりたい。

(5) 最後に

- ・次回は、3月25日（木）の午後7時から同じ場所で開催する。